

(7)

| | | | | |
|----------|--|---------|---------|--------|
| 氏名(生年月日) | セキ 関 | グチ 口 | ケン 建 | ジ 次 |
| 本 籍 | | | | |
| 学位の種類 | 医学博士 | | | |
| 学位授与の番号 | 乙第759号 | | | |
| 学位授与の日付 | 昭和61年4月18日 | | | |
| 学位授与の要件 | 学位規則第5条第2項該当(博士の学位論文提出者) | | | |
| 学位論文題目 | 扁平上皮癌の頸部リンパ節転移に対する放射線治療効果の臨床的評価 一腫瘍縮小曲線における体積半減時間の分析を中心に一 | | | |
| 論文審査委員 | (主査)教授 重田 帝子 (副査)教授 菊地 鎌二, 教授 石井 哲夫 | | | |

論 文 内 容 の 要 旨

目的

放射線治療による頸部リンパ節転移の制御は特に頭頸部癌においては、予後を左右する重要な因子である。したがって局所制御の可能性の確かな判定が放射線治療中に推測できるならば、その後の治療法や予後の検討に極めて有用である。そこで扁平上皮癌患者の頸部リンパ節への照射中の変化を経時的に測定し、リンパ節の退縮速度や退縮パターンに影響を与える諸因子を検討し、臨床的評価を行なった。

対象および方法

1981年11月から1985年5月までに経験した食道、頭頸部管腔臓器、肺および子宮を原発とする扁平上皮癌患者37例の頸部転移リンパ節69個を対象とした。リンパ節計測は caliper を用い、照射開始直前より照射期間中、経時的に測定した。リンパ節の体積と照射開始日からの日数を片対数グラフ上にプロットし、指数関数的に体積が退縮する期間において体積半減時間(以下 T1/2 (V) と略す)を算出した。

結果

(1) 原発部位別に T1/2 (V) の平均値をみると、口腔、肺、下咽頭および食道で長く、中咽頭、子宮、喉頭および上咽頭で短い傾向がみられた。

(2) 原発巣の組織学的分化度別に T1/2 (V) の平均値をみると、高分化型群の T1/2 (V) が中・低分化型群に比較して短い傾向がみられたが、有意差はなかった。

(3) 初期退縮パターンには肩を有するものと有さな

いものがほぼ同数の割合でみられ、前者では 9.1 ± 5.7 日で後者の 14 ± 11 日に比べて T1/2 (V) は有意に短かった。

(4) T1/2 (V) とリンパ節の大きさの間には有意な相関がなかった。

(5) 頸部リンパ節の照射による反応を検討すると、急速退縮群では緩徐退縮群に比して、著効率は高く、かつ再増殖率も低かった。

考察および結論

T1/2 (V) は照射による腫瘍体積の退縮速度を表わしており、その退縮には照射後の生残腫瘍細胞の数、照射後の増殖動態および死細胞の除去能力などが影響している。しかしこれらの因子を直接的かつ客観的に把握することは困難で、特に臨床上評価の対象とできる因子は限定され、間接的なものとならざるを得ない。原発部位別に T1/2 (V) の平均値をみたとき、諸家の報告と同様に差がみられたが、今後さらに症例を重ねて検討したい。初期退縮パターン別では、年齢、分化度およびリンパ節直径などの背景因子には差がないにもかかわらず退縮曲線上、肩を有する群では肩を有さない群に比べて T1/2 (V) が有意に短くなっていた。この原因については今のところ不明であるが、T1/2 (V) は照射に対する一次効果と再発率をある程度反映することが確認でき、その算出は放射線治療による頸部リンパ節転移の制御の可能性を示唆する一指標として有用であった。

論文審査の要旨

本研究は扁平上皮癌の頸部転移リンパ節を放射線照射期間中に経時的に測定して、体積半減時間を算出し、退縮速度ならびにパターンに影響を与えている諸因子を検討したところ、退縮パターンは放射線照射に対する一次効果ならびに再増殖率についても反映することが明らかとなった。したがって、体積半減時間の算出は放射線治療による頸部リンパ節転移の制御の可能性を推測する上に重要な一指標となり得ることが確認できた。学術上、価値のある論文と認める。

主論文公表誌

扁平上皮癌の頸部リンパ節転移に対する放射線治療
効果の臨床的評価

一腫瘍縮小曲線における体積半減時間の分析を中心

東京女子医科大学雑誌 第55巻 第12号

1044～1052頁（昭和60年12月25日発行）

副論文公表誌

1) 乳癌の再発形式とその予後の検討

癌の臨床 30 (14) 1739～1745 (1984)

2) 胎内発育傷害児の成因と予後に関する産科的検討

日産婦中国四国会誌 27 (2) 49～55 (1979)

3) 食道癌に対する合理的な放射線治療—根治的照射と非根治的照射

臨放線 27 (10) 1159～1165 (1982)

4) 舌癌の放射線治療成績

日医放線会誌 45 (11) 61～67 (1985)

5) 切除不能膀胱癌に対する術中照射

癌の臨床 31 (7) 833～838 (1985)